

ミクロ経済学A/現代経済学I 第5回「部分均衡分析③」

法政大学 経済学部 平井俊行

課税

- 完全競争市場では政府（公共部門）を考えていない。
- 一方、現実には政府は存在しているし、市場取引を円滑に行うためには必要。
 - 流通インフラ、治安維持、etc.
- 税金 = 政府の収入。
- 課税は余剰を 減る させてしまう。

課税の方法

- 本講義では物品税のみ考える。
- 従量税：1 単位ごとに課税されるもの。
 - 酒税、たばこ税、など。
- 従価税：価格ごとに課税されるもの。
 - 消費税。
- 本講義では従量税について考える。

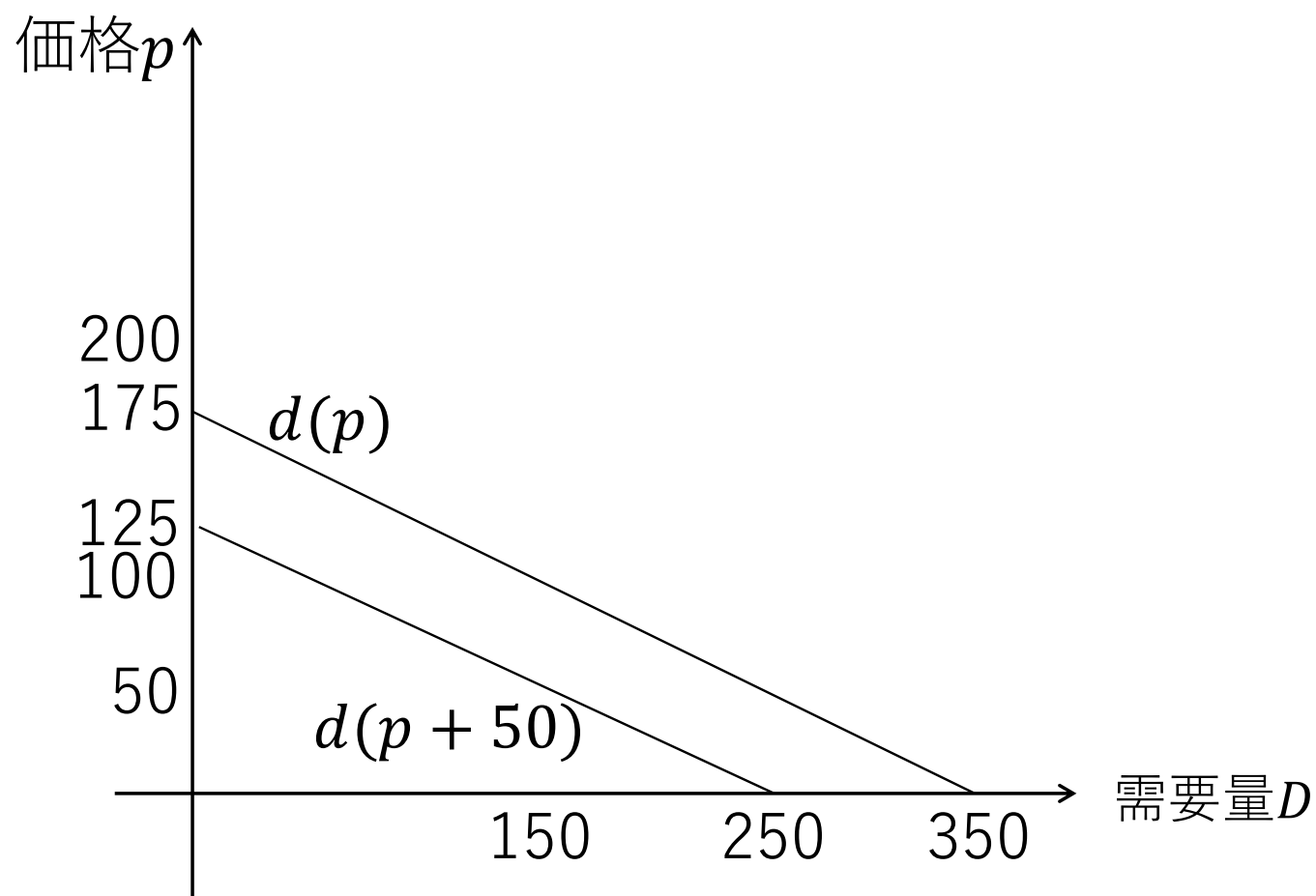
消費者への課税

- ある財の市場の需要関数を $D = d(p)$ とする。
- この財の消費者に対し 1 単位消費するごとに t だけ課税したとする。
- 消費者は p だけ支払えば財を購入できたが、
課税後は $(p+t)$ だけ支払う必要がある。
- 需要関数は $\bar{D} = d(p+t)$ になる。

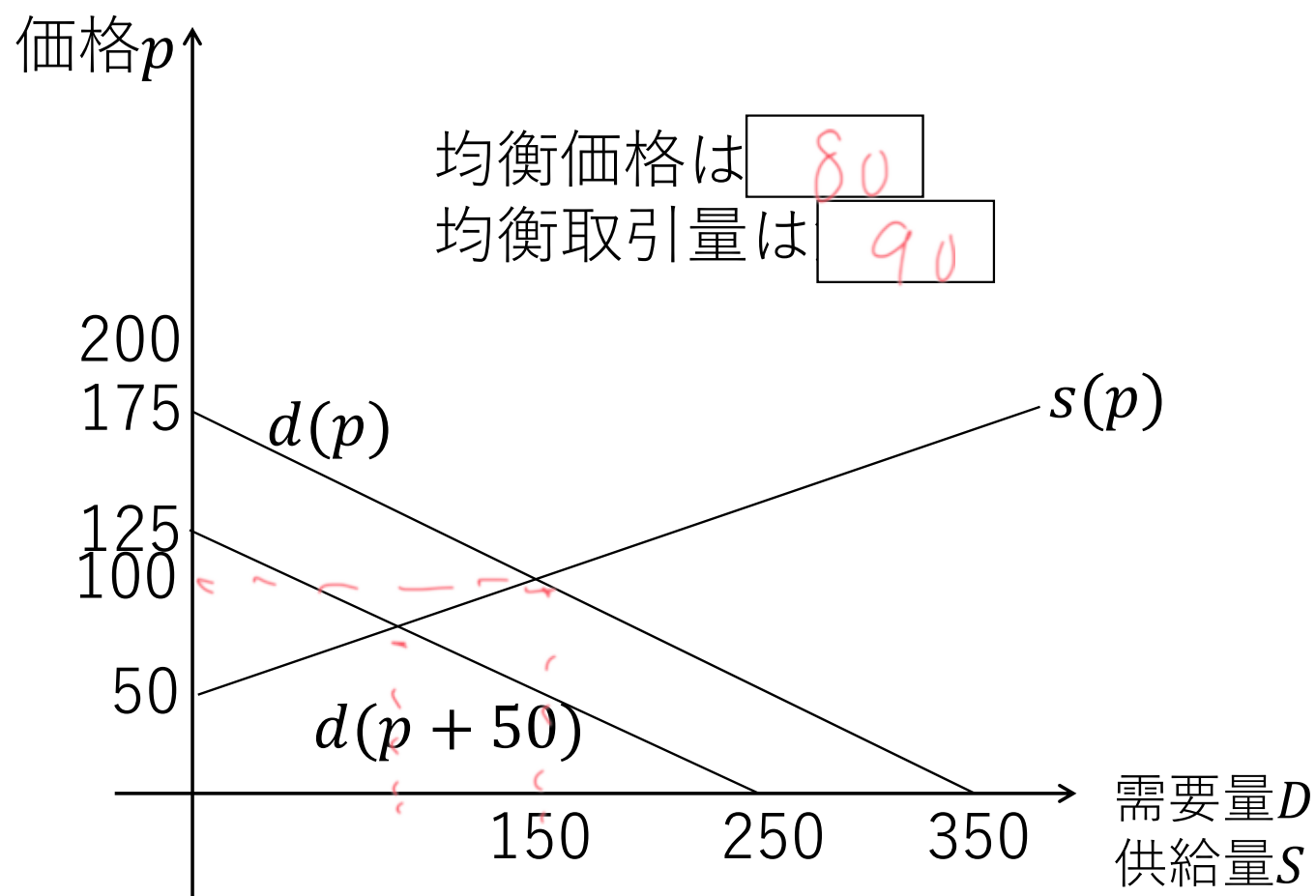
例： $D = 350 - 2p$ に 50 だけ課税

$$\rightarrow \bar{D} = 350 - 2(p+50) = 250 - 2p$$

需要曲線のシフト



均衡の変化



実際に計算してみると

- 課税後の均衡は $\bar{D} = \bar{S}$ となればよいので、

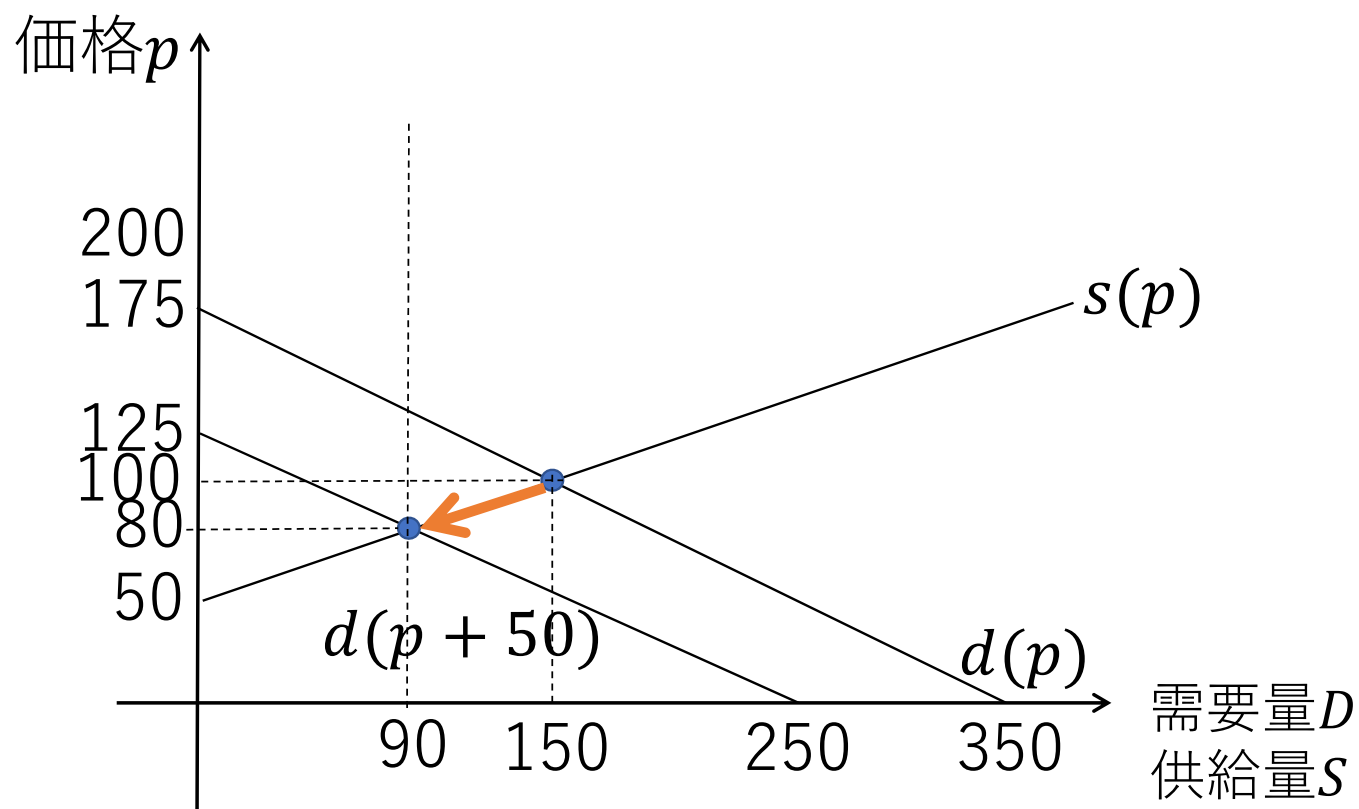
$$250 - 2p = 3p - 150$$
$$p = 80$$

より、均衡価格 80 均衡取引量 90

均衡価格 、均衡取引量

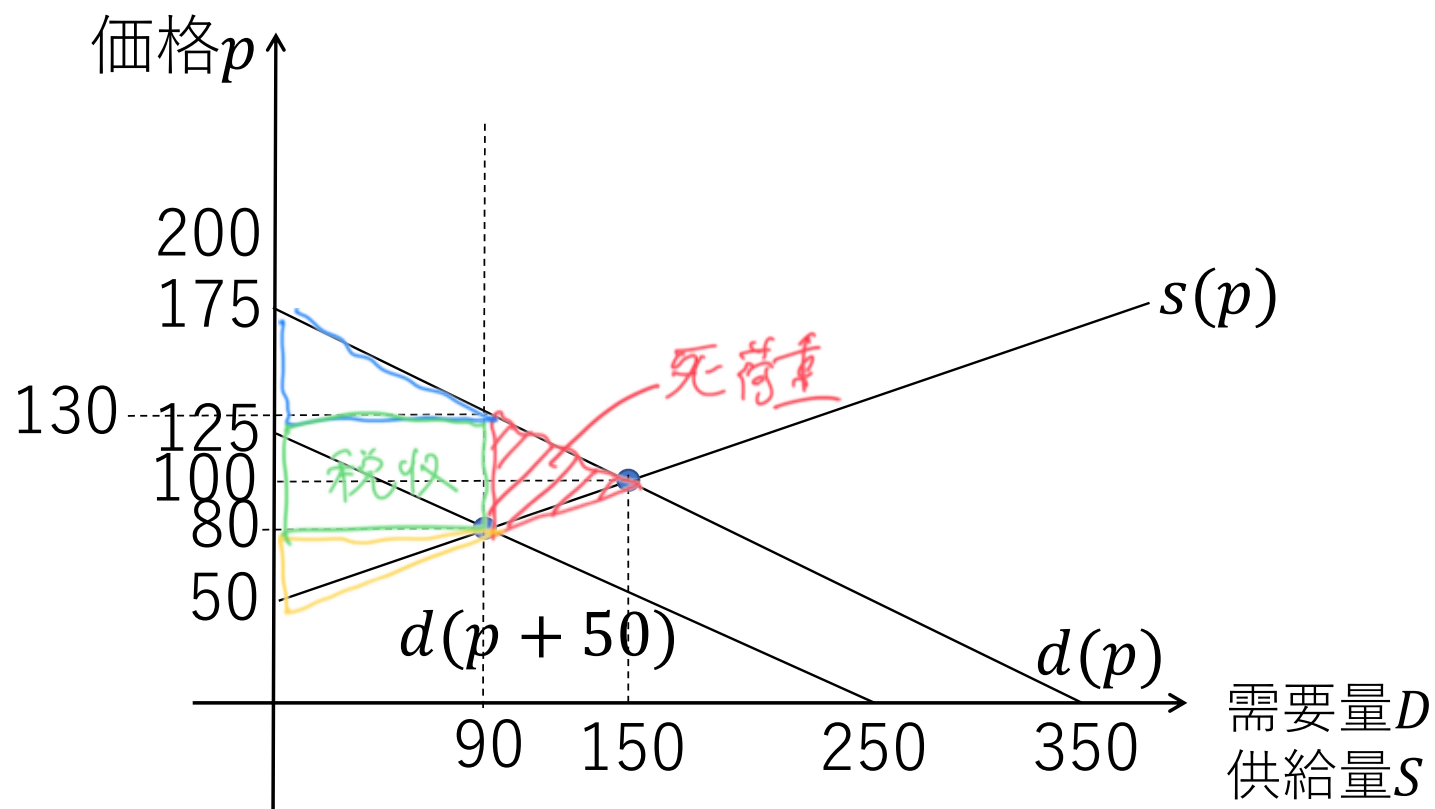
余剰の変化

結果の善し悪しは余剰で考える。



余剰の変化

結果の善し悪しは余剰で考える。



課税の転嫁

- 消費者に課税すると需要 減少
- 市場を通じて価格 低下
- その分安くなるので課税額をすべて消費者が負担するわけではない。
- 残りの分は生産者が負担している。
 - 受け取れる額が 減少

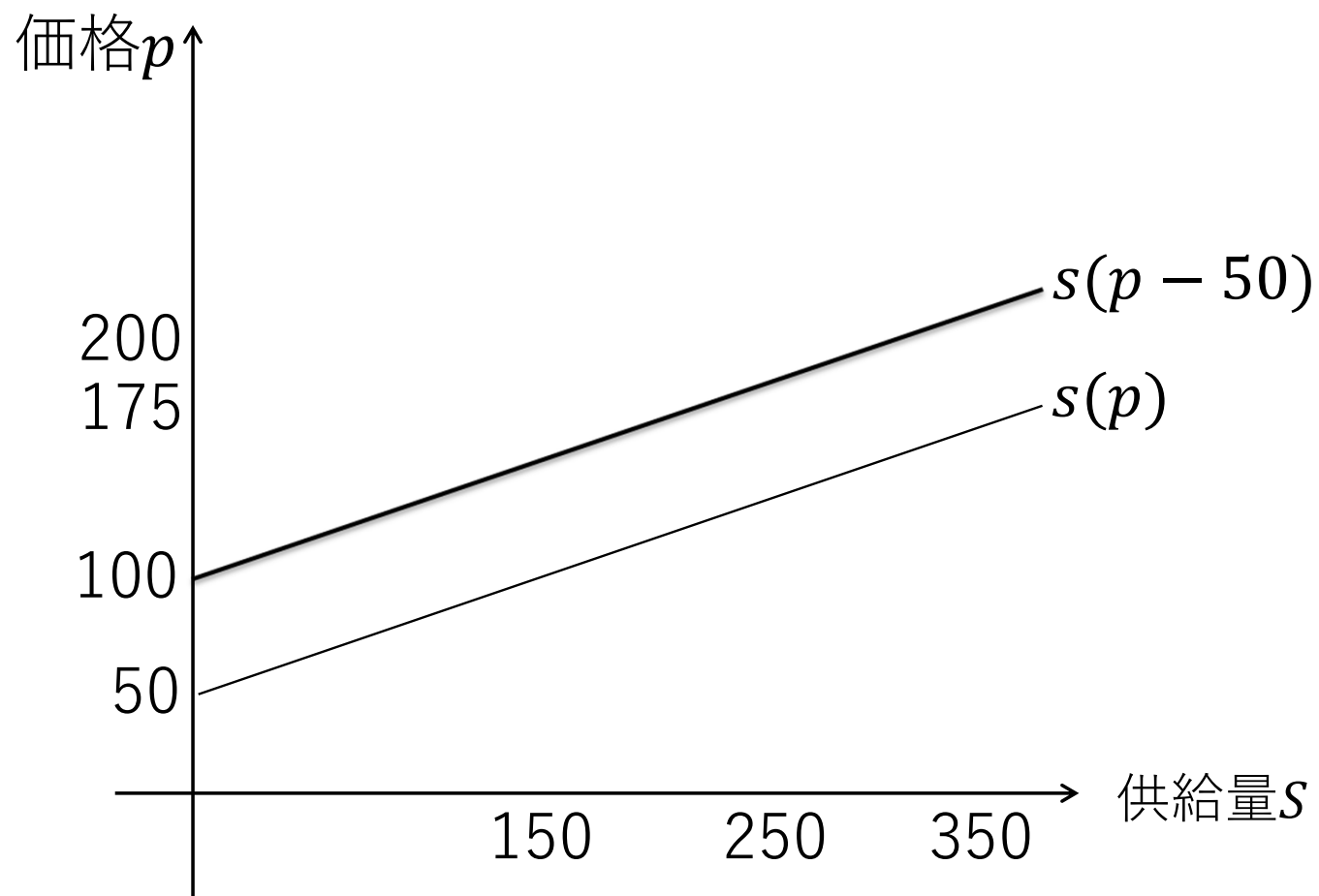
生産者への課税

- ある財の市場の供給関数を $S = s(p)$ とする。
- この財の生産者に対し 1 単位販売するごとに t だけ課税したとする。
- 生産者は財を販売することで p だけ受け取れたが、
課税後は $(p-t)$ だけしか受け取れない。
- 供給関数は $\bar{S} = s(p-t)$ になる。

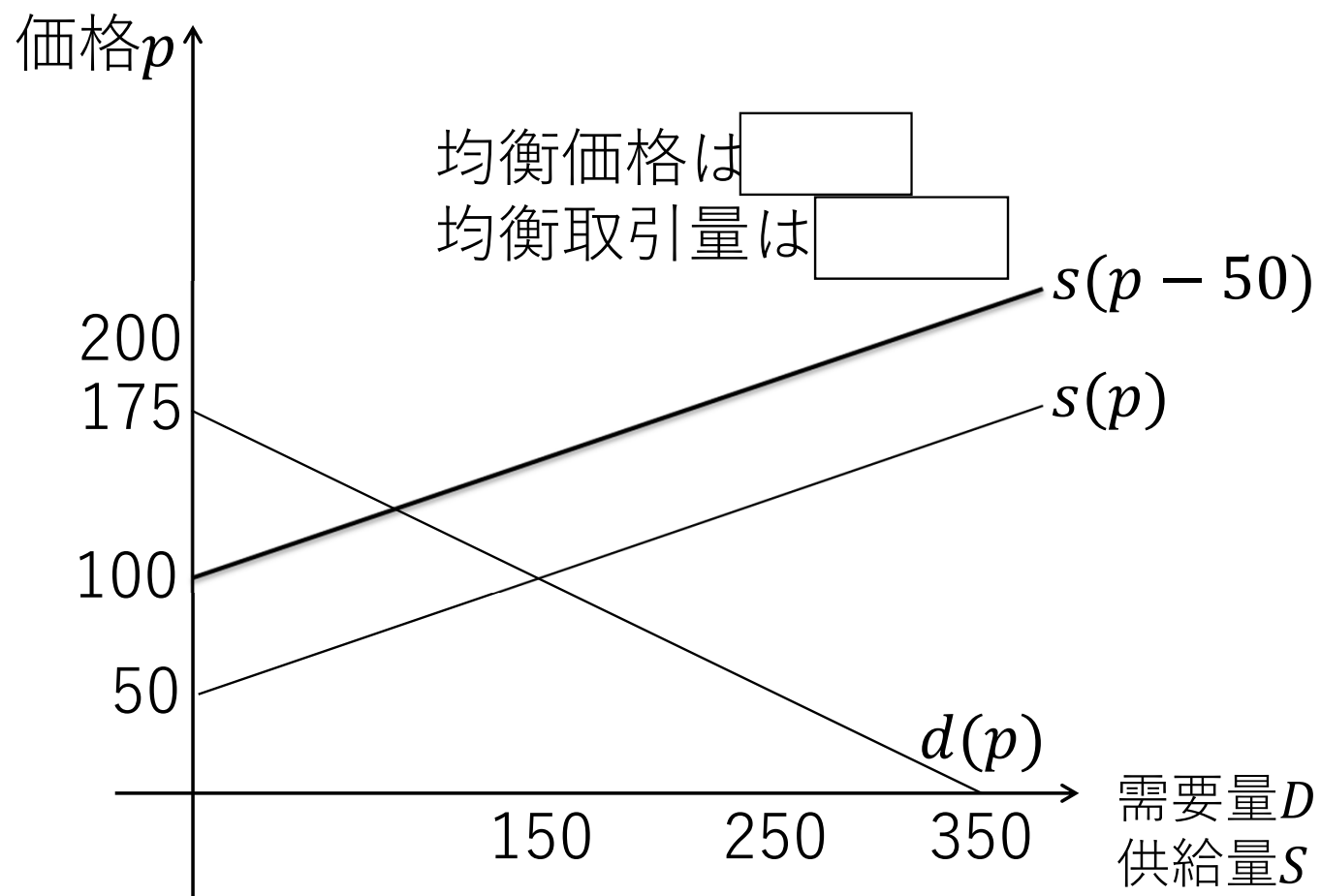
例： $S = 3p - 150$ に 50 だけ課税

$$\rightarrow \bar{S} = 3(p-50) - 150 = 3p - 300$$

供給関数のシフト



均衡の変化



実際に計算してみると

- 課税後の均衡は $D = \bar{5}$ となればよいので、

$$3p - 300 = 350 - 2p$$

$$5p = 650, \quad p = 130$$

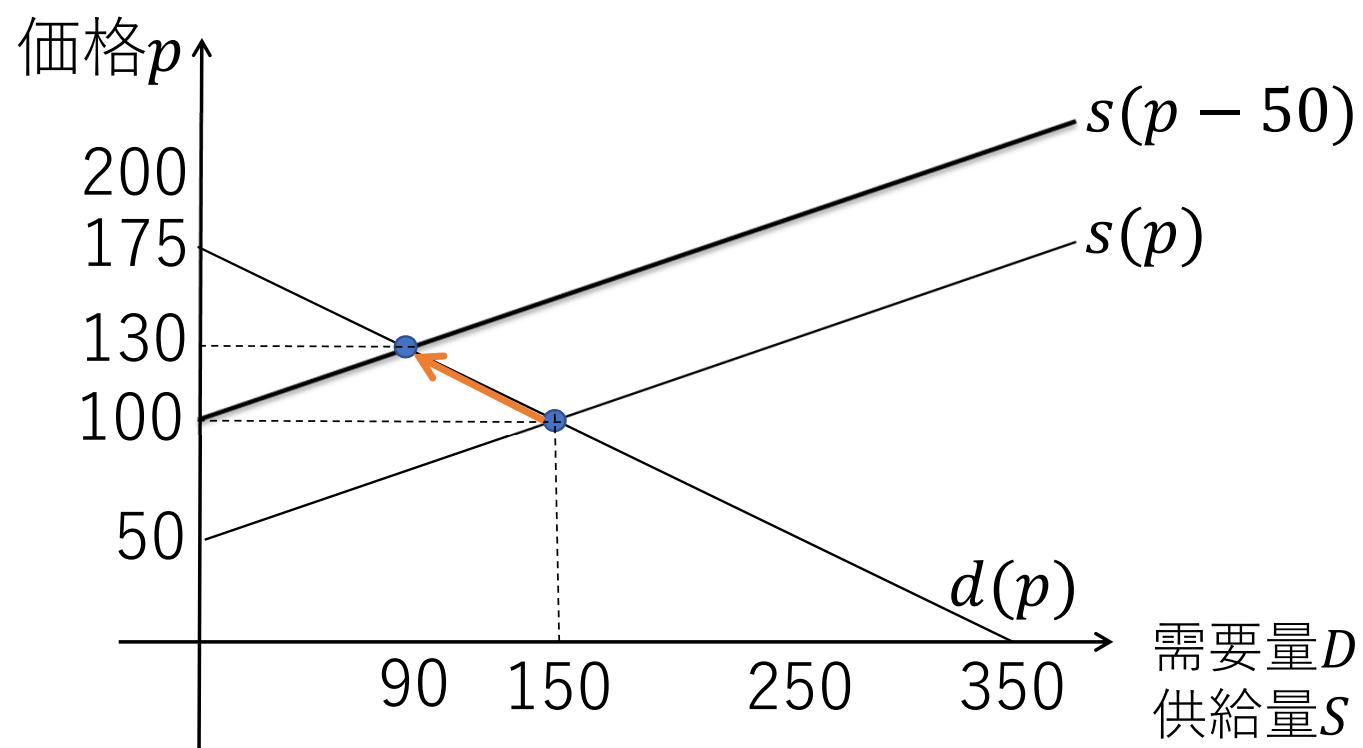
$$3 \cdot 130 - 300 = 90$$

より、均衡価格 130 , 均衡取引量 90

均衡価格 均衡取引量

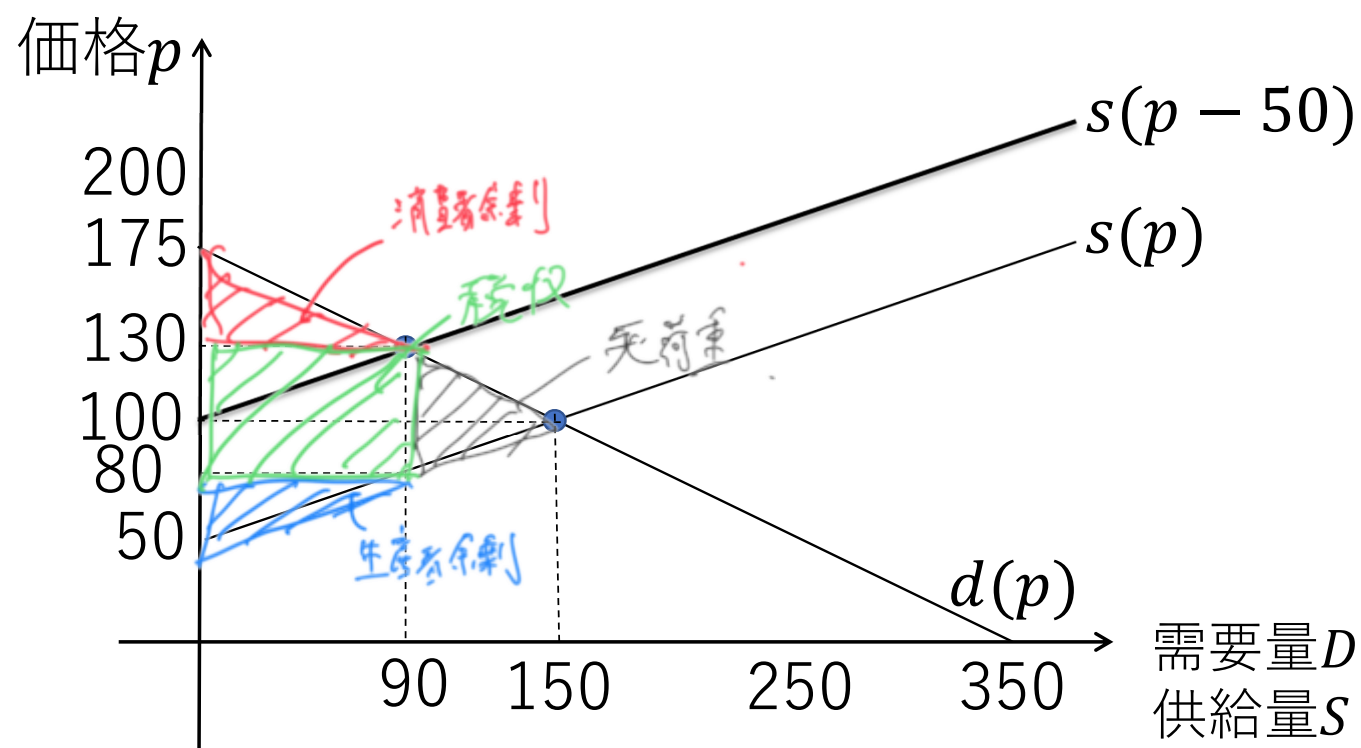
余剰の変化

結果の善し悪しは余剰で考える。



余剰の変化

結果の善し悪しは余剰で考える。



課税の転嫁

- 生産者に課税すると供給 減少
- 市場を通じて価格 上昇
- その分高くなるので課税額をすべて生産者が負担するわけではない。
- 上昇した分は消費者が負担している。
 - 支払わなければならない額が 増加

課税の帰着

- 余剰の変化の図を消費者に課税したときと、生産者に課税した場合とでは、余剰はまったく同じ。
- どちらに課税してもそれぞれの税負担は同じになる。

練習問題

$D = 350 - 2p, S = 3p - 150$ であるような市場(第3、4回の練習問題およびここまで分析してきた市場)に1単位当たり50の従量税を課したとする。このときの消費者余剰、生産者余剰、税金、死荷重を求めなさい。

(図はこれまでに描いたものを利用してよいものとする。)

問題6(a)

- 図はすでに書いたのあととは計算。

- 消費者余剰

- 生産者余剰

- 税収

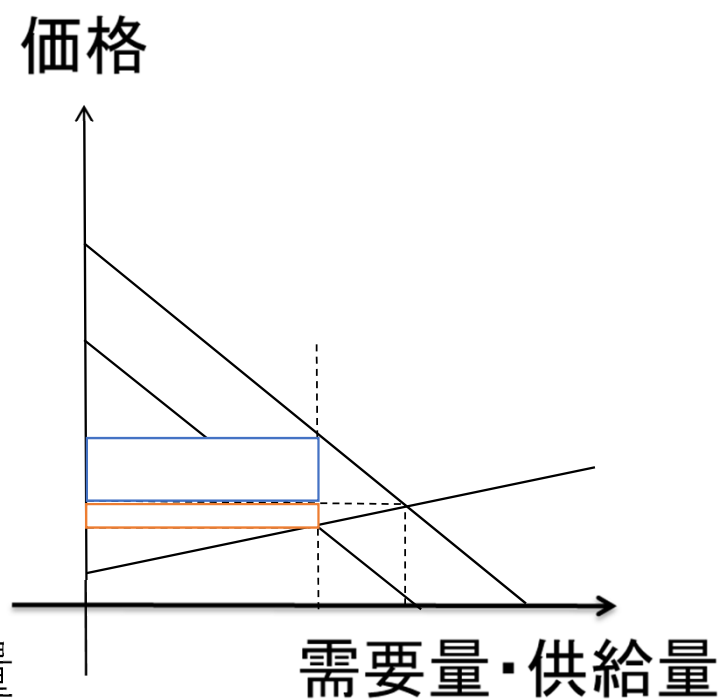
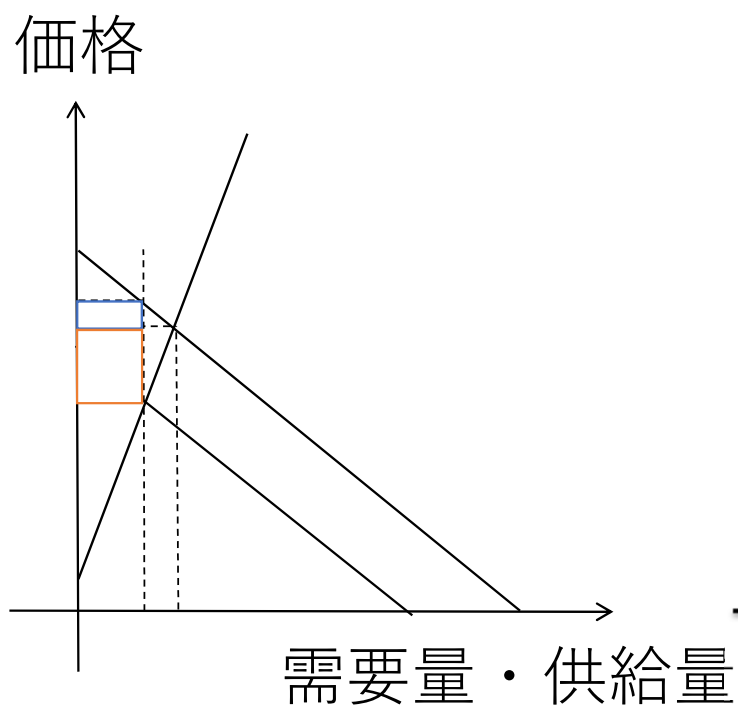
- 死荷重

- 以前求めた総余剰から消費者余剰・生産者余剰・税収を引いてもよい。

税負担と価格弾力性

供給がより非弾力的

供給がより弾力的



□ 消費者余剰→税収 □ 生産者余剰→税収

税負担と価格弾力性

- 消費者・生産者のうちより弾力的なほうが、自身の余剰から税収へ変わる割合が 小さい
 - 弾力的→価格が変化すると需要量や供給量をより 大きく 変化させる。
 - 状況が悪くなった時にほかの選択肢へ逃げやすい。
 - 早く逃げたほうが被害が小さくなる。